

令和3年度 編入学・学士入学試験問題

学類名	人間発達文化学類	科目名	小論文
-----	----------	-----	-----

以下の問題 1、問題 2、問題 3 の全てについて解答しなさい。

(注意)

1. 解答は解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は横書きとすること。
3. 3 枚の解答用紙の口にそれぞれ問題番号を記入すること。
4. 句読点、引用符、括弧などはそれぞれ 1 字と数え、1 マスを用いること。
5. 算用数字とアルファベットについては、それぞれ 1 マスに 2 字とすること。ただしこれらを単独で用いる場合は、1 マスに 1 字とすること。

問題 1

資料 1 は落合陽一著『働き方 5.0 これからの世界をつくる仲間たちへ』（小学館新書、2020 年）の一部です。筆者の思考体力についての考え方をふまえ、どのような経験を通して思考体力が育てられていくと思うか、あなたの考えを 400 字以内で述べなさい。

【資料 1】

自分なりのコンテクストを考えよう

思考体力を身につけるには、他人と情報交換ばかりしていても意味がありません。たとえば打ち合わせは、基本的に各自が考えてきたことを提示して取捨選択する場なので、あまり頭を使わないはずなのです。そこで時間をすり潰すことによって均一化されたアイデアを生み出すことと時間の浪費を行うのは非効率的でしょう。

本当に頭を使うのは、ミーティングに出すネタを考えるときです。ところが思考体力がない人は、よその打ち合わせや SNS やビジネス書などで仕入れたネタを右から左に流すだけ。それでは思考体力はつかないし、暗黙知が深まるはずもありません。

ですから、ネットや他人から得た情報を鵜呑みにするのではなく、あらためて自分で考える習慣をつけることが、思考体力を高めるための第一歩でしょう。たとえば何か疑問を持ってグーグルで検索したときに、ウィキペディアや「ヤフー！知恵袋」のようなページですぐ「答え」が出てきたら、その答えを知って満足する以前に、自分が抱いた疑問自体を反省しなければいけません。

なぜか。ウィキペディアに答えが書いてある問いが浮かんだということは、その疑問の持ち方そのものにオリジナリティがない証拠だからです。何を調べてもウィキペディアや

「ヤフー！知恵袋」で解決してしまうようでは、クリエイティブ・クラスにはなれないでしょう。また、ネットで知った知識をそのまま人に話しているようではダメ。思考体力の基本は「解釈力」です。知識を他の知識とひたすら結びつけておくことが重要です。

したがって大事なのは、検索で知った答えを自分なりに解釈して、そこに書かれていない深いストーリーを語るができるかどうか。自分の人生とその答えはどうやって接続されていくのか。それを考えることで思考が深まり、形式知が暗黙知になっていくのです。

そういった能力は、考えたことの意味を「言葉や実装で説明する」努力をすることで養われます。(中略)

思考体力は子ども時代から培われる

もし小さい子どもにそういう思考体力を身につけさせたいなら、周囲の大人がいろいろな問題について「言語化」を促すのが効果的でしょう。

それには、まず子どもの発言に適当に相槌を打つのではなく、「ちゃんと聞いてあげる」ことが大切です。幼稚園から帰ってきた子どもが「今日は楽しかったよ!」などと言ったときに、「それはよかったね」「明日もきっと楽しいね」だけで受け流すのではなく、今日は何が楽しかったのか、いつもとは違う面白さがあったのか、それを楽しんだ子はほかにもいたのか……などと聞いていく。そうやって、「楽しかった」という抽象的な感覚を言語化するために質問を重ね、ブレイクダウンしてあげるのです。

もっとも、こういうブレイクダウンは聞く側にもそれなりに思考体力がないとできません。日頃から意識することが重要です。話題は共通の趣味でもいいし、社会問題でもいいでしょう。たとえば何かの時事問題が SNS で飛び交っているとして、

「あの政治判断は間違いだよな」

「けしからん話ですなあ」

そんなやりとりだけで終わったのでは、何の実りもありません。ならば「政治判断」とは何なのか、どんな対策が正しいと考えるのか、そもそもその判断の根拠になるデータや統計や予測はあるのか……といった具合に問題をブレイクダウンしていけばいい。そうすることで、意義のある会話になるのです。

ところが思考体力のない人は、たいがいの話題を「どうしたらいいんですかねえ」「まあ、いろいろありますよねえ」といった言葉で終わらせてしまう。親がそのような聞き方しかしないようだと、子どもの思考体力は高まりません。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています。

問題 2

資料 2 は荻上チキ著『すべての新聞は「偏って」いる——ホンネと数字のメディア論』（扶桑社、2017 年）の一部です。著者の主張を踏まえ、メディア（新聞、ネットニュース、SNS 等）との適切な関わり方についてのあなたの考えを 400 字以内で述べなさい。

この部分に記載されている文章については著作権法等の問題から公表することができませんのでご了承ください。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています

問題 3

資料 3 は佐藤雅彦著『毎月新聞』（毎日新聞社、2003 年）の一部です。「基本を学ぶ」ということについての著者の考え、およびそれに対するあなたの考えを 400 字以内で述べなさい。

【資料 3】

最近、パッケージデザインの作業で、ある円筒形の缶の周囲を測ることになり、事務所のものにそれを命じた。

どうするかな、と何気なく観察していると、彼女はまずコピー用紙の一辺を切り、細長い紙の帯を作った。それを缶に巻き丁度一周したところに印を付け、それを机の上にあらためて広げ、定規で長さを測った。巻き尺などが無い時には、一番手っ取り早い方法である。「33 センチです」と彼女は教えてくれた。念のため直径も測ってみて、と言うと手にしていた定規ですぐ測り「10.5 センチです」と言った。次に「じゃあ、さっきの数字を今の直径で割ってみて」とわり算を命じた。電卓を打ち、その数字をじっと見て彼女はすごく嬉しそうに答えた。「3.14 になりました」。嬉しそうな理由はその次に発した言葉に出ていた。「もしかして、“円周率”というのは円周と直径の比率のことだったんですね」

彼女は円周率=3.14 というお題目のように憶えていたことに真の意味を見出し、それが嬉しかったのである。

そんなこと当たり前じゃないか、という方も多いと思うが、僕がここで言いたいのは、彼女の無知でもなく、小学校の教育が不十分だ、ということでもない。むしろ、彼女は一般的には才媛だし、かたや小学校の授業では必ずと言っていいほど、直径と円周の関係についてはちゃんと教えている。では、なぜ能力もあり、教育も受けたのに、こんな基本的なことが抜けていたのであろうか。それは、一種の盲点かもしれない。実は『基本的なことこそ、それがなぜ基本的で重要なのかは理解できにくい』のである。

かつて、小学校の算数に「数学の基本」だからという理由で「集合」が登場したことがあった。赤いものの集合を挙げなさいといった問題が出され、リンゴとか郵便ポストと答えると丸がもらえた、それは難しい分数の計算で丸をもらうのと違い、なにか変だった。みんな丸をもらえるものだから、特に何も言わずその時期を通り過ぎていた。多分、先生も数学の基本概念と言い含められて現場に降りてきたものだから、素直に「変だ」と言えない状況がしばらく生まれたのであろう。一種の裸の王様状態である。それも「基本が大事」ということを金科玉条として、記号的にみんなが受け止めていたせいではないだろうか。

「基本が大事」ということと「基本から教える」ということは単純にイコールではない。数学を追究していくと、無限などの概念を明確にする上で集合論は重要で、数学の体系はその上に成り立っていることがわかる、つまり、数学において集合はどとても基礎的な考え方なのである。しかし、基礎だから小学校から教えるというのは、あまりに短絡的であった。基礎こそ、それが基礎であるということがわかる位のハイレベルな理解が必要なのである。

小学校でも中学校でも、教わることはたくさんある。その上で、どれが基本的な考え方でどれが末節な知識なのかという、ウェイト付けのような高度な知的作業は、自分が小中学生

だった時のことを思い出せば無理な事がわかる。しかし、我々は、なにも小学校や中学校で完成というわけではない、僕の事務所の人間のように、円周率の本当の意味を取り戻すチャンスは必ずやってくるのだ。(その時のためにも円周率は約3ではなく3.14と教えるべきである)。このように『基本的なことが何故基本的なのか』が自らわかるのは、一度いろんなことがわかった上での事である。

「基本が大事」なのは勿論である、しかし同時に、基本を学ぶことは難しい。だとしたら、僕はいつか、基本の大切さや意味を取り戻すための義務教育のアフターサービスのような新しい教育を、TVやインターネットなどのメディアでやってみたいと思っている。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています。

令和3年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 編入学および学士入学

人間発達文化学類のアドミッション・ポリシーをふまえて、3つの資料を与え、それぞれ400字以内で論述させることにより、受験者の理解力・思考力・表現力を総合的に判断する。

問題Ⅰでは、思考体力に関する文章を読み、主旨を理解した上で、自分の考えを述べる能力をみる。

問題Ⅱでは、メディア報道に関する文章を読み、与えられた情報に対し批判的かつ客観的に考察する能力をみる。

問題Ⅲでは、基本を学ぶことに関する文章を読み、筆者の主張を理解したうえで、自分の考えを述べる能力をみる。